

2015年3月6日

東洋医学あいうえお

東洋医学をわかりやすく端的に説明できたらという思いから、「東洋医学あいうえお」というテーマにしました。私自身も東洋医学を充分理解しているとは言い難いですが、私なりに簡単にまとめてみたいと思います。

最初に、東洋医学の基本は、いわゆる天人合一思想です。

それは、人の体のしくみというものは、自然のしくみと全く同じで、自然の中に人がいて、人の中に自然があるという考え方です。

広大無辺な宇宙(自然)と、その中のちっぽけな地球という星の上に生活している一人の人間の肉体とは、そのしくみ(機能・原理)においては全く同じであるということです。マクロ(宇宙)のしくみを極限に細分化すると、同一のしくみをもつミクロ(人間)になり、さらにまた、マクロ(人間)のしくみをさらに極限に細分化すると、ミクロ(数十兆の細胞)のしくみになって、機能・原理の本質においては、全く変わらないということです。いわば私とは宇宙である、と言えます。そう思うと、とても感動的な気持ちになりませんか。

よく現代医学(西洋医学)は分析的で、東洋医学は全体的だといわれていますが、それは一面的解釈で、実は東洋医学はマクロ的視点とミクロ的視点を自由に行き来する複眼思考にたった統合医学だといえます。

東洋医学は変化を重視します。つまり、この世のすべては常に変化していて、一瞬の静止もあり得ない、ということです。人間の体も生に始まり、死に終わるまで毎日変化し続け、今日と明日とは同じ状態ではない、という考え方です。

日々変化している体のバランスを調整している自然治癒力も、体の変化に対応するために変化し続けています。無意識のうちに体の調整をしてくれる、この自然治癒力をもつ体のしくみを、知れば知るほど本当によくできていると感嘆せざるを得ません。

中国の哲学である陰陽論は、東洋医学の基本的な視点です。二つの相反する要素によって生理機能は成り立っている、という考え方です。陰とは静的で収束するイメージの機能であり、陽とは動的で発散するイメージの機能です。この二つの機能が拮抗しつつ体のバランスを調節しています。陽と陰のどちらかが過剰になったり、またどちらかが不足したりしても体のバランスに影響を与えます。

神経で言えば、交感神経は陽的機能であり、副交感神経は陰的機能とみなされ、その二つの機能が拮抗しながらバランスを維持しています。

東洋医学は陰陽という二つ視点を重視して体の変調を調べます。

東洋医学は量よりも質ではなく、何よりも巡りを重視します。もちろん、物質的な過不足も重要ですが、機能を維持するには、物質の量的充足よりも、物質が全身をいかに円滑に巡っているか、を最も注目します。そして、その巡りを維持する動的な根源として、熱が必要不可欠になります。当然、施術者は患者さんの体の冷えに対して敏感になります。

鍼灸治療は、この巡り、つまり、気の流れをいかに円滑にするかを、究極的な治療目的としている、と言ってもいいと思います

陰陽論に五つの視点を加えて、陰陽五行論という中国哲学があります。東洋医学も腎・脾・肝・肺・心の五つの機能で体のしくみは成り立っていると考えます。この五つの機能を単に横並びにとらえるのではなく、複合的な機能分担をする層構造として考えます。体全体だけでなく、局所・細部の機能も同様に層構造としてとらえます。

五つの機能は、

- ① 腎…生命力を内蔵する最も根源にある機能。
- ② 脾…生命力のポテンシャルを増幅させて具現化させる機能。
- ③ 肝…外に上に生命力を拡散させて体全体の巡りをよくする機能。
- ④ 肺…拡散する生命力の外殻として、内部と外界の交流を行うと同時に、外界からの侵入に対して内部を保護する機能。
- ⑤ 心…全体を異次元から統括し、全体の機能を活性化させる機能。

以上が東洋医学の特徴的な視点です。これらの機能のバランスをいかに維持して、気の流れ・巡りをよくするかが、鍼灸治療の最大の目的です。